



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

【本稿は同日リリースの英文の Credit Agricole Group S.A. 2009 年度報告の抄訳です】

2010年2月25日 パリ

クレディ・アグリコル・グループ*

2009年度

純利益グループ帰属分: 27億4,700万ユーロ (+12.1%)

2009年第4四半期

純利益グループ帰属分: 9億5,700万ユーロ (+36.7%/2009年第3四半期)

*クレディ・アグリコル S.A. 及び地域銀行の 100%を反映

クレディ・アグリコル S.A.

2009年は全体的に良好な業績

2009年度

純利益グループ帰属分: 11億2,500万ユーロ

- 収益の堅調な伸び: 12.4%増加
- 費用の大幅な減少: 3.6%減少
- 営業総利益の力強い伸び: 73.4%増加
- リスク関連費用の増加幅は以前より縮小: 48.2%増加
- 一株当り純利益: 0.50ユーロ
- ティア1比率が示す健全な財務状態: 9.5%

2009年第4四半期

純利益グループ帰属分: 4億3,300万ユーロ

- 事業部門の収益: 非継続事業及び会計処理による影響額*を除き、前四半期と同一条件で13.8%増加
- 営業費用: 2008年第4四半期比で2.6%減少(同一条件で)
- リスク関連費用: 非継続事業を除き、2008年第4四半期比で23.1%減少

*債券発行の再評価とローン・ヘッジ

2009年2月24日、2009年12月31日を期末とする1年間の業績を見直すために、ルネ・キャロンを議長とし、クレディ・アグリコル S.A. の取締役会が行われました。2009年の純利益グループ帰属分は、11億2,500万ユーロで、第4四半期の4億3,300万ユーロが含まれています。

過去2年間に及ぶ極めて厳しい経済状態及び財政状況の下、クレディ・アグリコル S.A. は、健全なファンダメンタルズに支えられ、全ての事業部門を事業再編し、2009年を回復の年とするために、当グループに新たな推進力を注ぎました。

健全なファンダメンタルズ

クレディ・アグリコルS.Aのファンダメンタルズは健全であり、以下の財務指標・事業内容に示されている通りです。

- 健全な財務状態であるといえる。自己資本グループ帰属分は455億ユーロで、ティア1比率は9.5%。コア・ティア1比率は9.3%(リスク・プロファイルに照らし合わせても極めて安定感がある)。財務状態も、クレディ・アグリコルS.Aグループの磐石な財政基盤に支えられている(自己資本グループ帰属分は、688億ユーロ)。
- ユーロ圏を中心として、世界中に5,900万人の個人顧客を持つリテール・バンキング業務の強みを持つ。
- 各テリトリーにしっかりと根ざしたリテール・バンクと特化した事業部門(特に消費者金融、資産運用及び保険)に強みを持つ。フランス及び欧州では業界トップの地位を誇る。

全部門の事業再編は成功

当グループは、激変する市場環境がもたらす新たな課題に備えて、各部門を事業再編するために重要な経営戦略に着手しました。

- 資産運用では、欧州第3位のアムンディ(Amundi)の75%をクレディ・アグリコル・グループが保有し、欧州において優位な基盤を築くことになりました。金融サービス部門においては、クレディ・アグリコルS.A.は現在カセイス(CACEIS)の85%を保有することによって、サービスの拡大と管理が可能になりました。
- フランスのリテール・バンキング部門は、イノベーションと新規事業を惹きつける能力を明らかに示しました。地域銀行は、400万のLivret Aの預金口座を開設し、100万枚のDouble Actionカードを販売し、BforBankの発売に成功しました。LCLは、預金の急増、支店の合理化、“ペーパーレス”プロジェクトによって、体制を強化しました。
- 国際リテール・バンキングは、ネットワークを改編するために、1年を通して相当の努力を払いました。カリパルマ(Cariparma)とフリウアドリア(FriulAdria)では、一体化した企業組織を最適化するために、中央のサポートシステムを統合しました。エンポリキ(Emporiki)は、2009年の10月に発表された経営計画でも明らか通り、徹底した事業再編に取り組んでいます。当グループは2009年には、アフリカの現地法人にも再び力を入れました。まずモロッコの現地法人を強化する一方で、コンゴ、ガボン、コートジボワール及びセネガルからは事業を撤退しました。
- 専門金融サービスでは、ソフィンコ・フィナレフ(Sofinco Finaref)とCAリーシング・ユーロファクター(CA Leasing Eurofactor)を合併し、両社の資本力を統合しました。
- クレディ・アグリコル・アシュアランス(Assurance)は、資本力を集結させ、一つの事業部門として新たに創設されました。全ての保険事業部門は、この会社の傘下に置かれ、全ての従業員が、一か所に移されました。CAAGIS(クレディ・アグリコル・アシュアランスとGestion Informatique Services)は、こうした統合を実施するために設立されました。
- 法人営業及び投資銀行部門は、引き続き事業再編を継続しました。継続事業は、リフォーカス・プランに沿った力強い伸びを見せました。非継続事業は、引き続き積極的に縮小を進めています。

当グループの原動力は強化されました

2009年に、グループ全体の成長の基盤としての役目を果たす幾つかのプロジェクトが開始され、また実行されました。

- 39の地域銀行が、共通のITシステムを採用し始めました。当プロジェクトは、中期的には大規模な相乗効果を生み出すでしょう。
- クレディ・アグリコルS.Aと幾つかの事業部門は、今後3年から4年で、地理的に一か所に集合するため、移転を行う予定です。これによる費用節減に加えて、グループとしての企業精神が更に強まるでしょう。
- クレディ・アグリコルS.A.は、子会社の当グループへの帰属感を高めるために、クレディ・アグリコルの名前を体系的に含むようにすることで、当グループのブランド確立の方針を見直しました。
- クレディ・アグリコルS.A.は、この金融市場に籍を置くプロフェッショナル達にとって、多様性のある報酬決定の新たな方法を実施する、最初の仏銀行になりました。この方法とは、そのプロフェッショナルの中・長期的なパフォーマンス基準にプライオリティを置いています。
- クレディ・アグリコルS.A.は、2010年からグループ課税措置を選択しました(クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行を含みます)。これにより、税金に関してはグループ・レベルの組織的アプローチをとることになります。

事業部門再編のために講じられた全ての措置は、2009年に成果を上げ始めました。

- 銀行純利益は、12.4%増のほぼ180億ユーロに拡大しました。これは、従来の事業部門の推進力と、資本市場及び投資銀行部門の非継続事業のマイナスによる影響が減少したことを反映しています。
- 営業費用は、当グループの事業拡大にも関わらず、3.6%減と、顕著に減少しました。
- その結果、営業総利益は73%増加し、リスク関連費用の48.2%増加を相殺しました。
- 地域銀行の堅調な業績は、クレディ・アグリコル S.A.の利益への寄与(21.4%増)にも反映されています。

全体では、純利益グループ帰属分は、ほぼ10%増の11億2,500万ユーロに達し、回復が始まったことを示しています。

2010年初の傾向からも、当グループの事業全てが順調に実績を上げていることが確認されています。イタリアでは、インテサ・サンパオロ(Intesa Sanpaolo)とクレディ・アグリコルS.A.が合意に達したことで、更なる成長が見込まれます。

*

* *

取締役会は、2010年5月19日の年次総会で、一株当たり0.45ユーロの配当を株主が承認するように提案する予定です。配当の支払いについては2つのオプションが用意されています。

- 現金での全額払い 若しくは
- 株式での全額払い

取締役会では、クレディ・アグリコル S.A.の最大株主である S.A.S. Rue La Boetie は、新株による配当支払いのオプションを強く支持していると表明し、次回の年次総会で承認されることを条件として、新株による配当支払いが行われるであろうと示唆しました。

取締役会後、クレディ・アグリコルS.A.の取締役会の会長であるルネ・キャロンは、次のように述べました：「当社の2009年の業績は良好でした。この結果は、クレディ・アグリコル・グループ全体の成長推進力が、堅調であることを示唆しています。リテール・バンキング業務の強みに支えられて、我々がほぼ2年前にとりかかった事業再編の努力が実を結ぼうとしています。我々が最も誇りに思っている実績は、我々がフランス経済のファイナンスの有数なブ担い手として、お客様をサポートし続けてきたことです。」

クレディ・アグリコルS.A.の最高責任者であるジョルジュ・ポジェは、次のように述べました。「業績は、堅調で、質の高い内容でした。我々の事業戦略が実行可能であることと、我々の従業員全てが相当な努力を払った事実を反映しています。業績結果は、クレディ・アグリコルが、その地位と熱意に適う業績を再び達成しようという態勢で臨んでいることを示しています。」

*

* *

2010年財務カレンダー

2010年5月12日	2010年度第1四半期決算発表
2010年5月19日	年次総会
2010年5月27日	権利落ち日
2010年6月21日	配当支払い日
2010年8月26日	2010年度第2四半期及び上半期決算発表
2010年11月10日	2010年度第3四半期及び9ヶ月間累計決算発表

クレディ・アグリコル S.A. 連結決算

(in millions of euros)	Q4-09	Q4-08	Change Q4/Q4	Change Q4/Q4*	2009	2008	Change 2009/2008
Net banking income	4,494	4,598	(2.3%)	+13.8%	17,942	15,956	+12.4%
Operating expenses	(3,165)	(3,146)	+0.6%	(2.6%)	(12,182)	(12,635)	(3.6%)
Gross operating income	1,329	1,452	(8.5%)	+60.9%	5,760	3,321	+73.4%
Cost of risk	(1,288)	(1,614)	(20.2%)		(4,689)	(3,165)	+48.2%
Operating results	41	(162)	nm		1,071	156	x6.9
Equity affiliates	208	(27)	nm		847	868	(2.4%)
Net income on other assets	14	(280)	nm		(419)	148	nm
Tax	222	92	x2.4		(211)	66	nm
Gain (loss) on discontinued operations	58	28	x2.1		158	28	x5.6
Net income	543	(349)	nm		1,446	1,266	+14.2%
Net income - Group share	433	(309)	nm		1,125	1,024	+9.9%

*非継続事業と会計処理(ローン・ヘッジと社債発行の再評価)の影響額を除き、同一条件で算出

クレディ・アグリコルS.A.グループの銀行純利益は、この1年間で、12.4%増の179億ユーロに達しました。営業費用は、3.6%減少し、122億ユーロとなりました。一方、営業総利益は2008年比1.7倍の58億ユーロでした。

銀行純利益は、スエズ株の売却益 8 億 8,200 万ユーロを含む 2008 年の銀行純利益よりも遙かに高い水準となりました。これは、従来の事業部門における推進力が堅調であり、法人営業及び投資銀行部門の非継続事業によるマイナス影響額が著しく減少したことによるものです。

リテール・バンキング部門は、この1年でLCLの銀行純利益が3.6%増加しました。専門金融サービスの銀行純利益は、23.1%増加しました(同一条件で9.1%増)。国際リテール・バンキング業務は、回復力の強さと事業再編プランの効果が明確に示されました: 当事業部門の銀行純利益は前年比3.7%減と若干減少したものの、第4四半期には前年同期比で16.9%の大幅増となりました。資産運用部門、保険部門、並びにプライベート・バンキング部門は、引き続き拡大し、堅調な推進力を維持しました。年初後に経済危機に関連する影響があったものの、これらの部門は新規の純運用資産がプラスとなり、銀行純利益は2008年よりも0.9%増加しました。法人営業及び投資銀行部門は、2008年に発表されたリフォーカス・プランが掲げる目標通りとなり、2009年の継続事業¹の収益は32.8%増加しました。

営業費用は、営業管理の改善と、全事業部門が厳しい経済状況に沿った対応をしたことで、前年比3.6%減少しました。LCLの費用は抑えられ、国際リテール・バンキング部門は4.7%減少し、専門金融サービス部門は同一ベースで2%減少しました(主に2009年1月1日から有効のデュカトの連結による)。資産運用部門では大幅な減少、保険とプライベート・バンキング部門では同一ベースで5.1%の減少となりました(カセイスCACEISを100%連結に加えています)。法人営業及び投資銀行部門の継続事業の営業費用は6.9%減少しました。

2009年の営業総利益は、前年比73.4%増の58億ユーロに達しました。コスト比率は改善し、11.3pp低下の67.9%となりました。

¹ 継続事業は、社債とローンヘッジの再評価により修正された

リスク関連費用は、景気の悪化を反映して、1年間で急増し47億ユーロに達しました。リスク関連費用は、国際リテール・バンキング(10億8,900万ユーロで、主にギリシャの影響による)、専門金融サービス(13億2,000万ユーロ)、非継続事業(17億6,900万ユーロ)を含む法人営業及び投資銀行に集中しました。

2009年の**関連会社の利益**は、21.4%増の8億4,700万ユーロとなりました。これには、地域銀行の寄与分である8億2,200万ユーロを含み、地域銀行の業績が大幅に改善したことを反映しています。年間を通して、地域銀行は顧客ビジネスの力強い成長推進力を維持し、金融市場の好転によって、ポートフォリオの銀行純利益が2008年の低水準から、著しく増加しました。加えて、費用は厳しく抑えられました。当期の関連会社の利益は、2009年のインテサ・サンパオロ(Intesa SanPaolo)の統合によるマイナス影響額2億1,200万ユーロを含んでいます。

その他の資産からの純損失4億1,900万ユーロは、主に2009年の第3四半期にエンポリキ(Emporiki)の減損に対応する4億8,500万ユーロの認識によるものです。2008年は、その他の資産の純利益は、ソシエテ・ジェネラルと50/50で保有するニューエッジ(Newedge)の創設によって生じた4億3,500万ユーロを含んでいました。

非継続事業の純利益は、1億5,800万ユーロでした。これには、アフリカの以下のネットワークの一部の売却益が含まれています。: Credit du Senegal, Union Gabonaise de Banque, Societe Ivoirienne de Banque and Credit du Congo この取引は、2008年の株式発行時に当グループが定めた戦略の一部であり、地中海沿岸地方の事業に再び焦点を当てながら、欧州のリテール・バンキング部門にプライオリティを置こうするものです。

全体では、**クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分**は、スエズとニューエッジの大規模な売却益の恩恵を受けた2008年の10億2,400万ユーロに対し、2009年は11億2,500万ユーロに達しました。

2009年**第4四半期の純利益グループ帰属分**は、エンポリキ(Emporiki)の減損費用を含む同年前期比49.8%増の4億3,300万ユーロでした。こうした堅調な業績結果は、極めてポジティブな傾向を示しており、当グループの全ての部門の業績が好調であったことを反映しています。

財務状況

2009年12月31日現在、平均CRD(Capital Requirements Directive)リスク・ウェイト資産は、2008年12月31日現在よりも3.6%減の3,264億ユーロでした。この減少は、特に法人営業と投資銀行部門のクレジットリスクが減少したことと、資本市場部門の事業におけるリスク・プロファイルが厳格に管理されたことで、1年間で165億ユーロの市場リスクが減少したことによるものです。逆に、主に第2四半期のカセイス(CASEIS)の支配権取得による、幾つかの事業部門でのリスク・ウェイト資産の増加も含まれています。

ティア1・キャピタルは(Core Prudential Capital)、控除前が636億ユーロで、2008年12月31日現在から5.1%増加しました。控除後のティア1・キャピタルは310億ユーロでした。これらの数値には、SPPE(Société de prise de participation de l'Etat)が購入した30億ユーロの劣後債の2009年10月27日付での完全返済とそれ以降の新規発行債を含んでいません。

2009年12月31日現在、自己資本比率は9.8%、ティア1比率は9.5%、コア・ティア1比率は9.3%でした。

5. 法人営業及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q4-09 Ongoing activities	Q4-09 Ongoing activities, restated*	Change Q4*/Q4 Ongoing activities Restated*	Change Q4/Q3 Ongoing activities Restated*	2009 Ongoing activities	2009 Ongoing activities Restated*	Change 2009/2008 Ongoing activities, restated*
Net banking income	1,216	1,419	+29.0%	(5.9%)	5,503	6,427	+32.8%
Operating expenses	(785)	(785)	+4.2%	+2.7%	(3,057)	(3,057)	(6.9%)
Gross operating income	431	634	+82.7%	(14.8%)	2,446	3,370	x2.2
Cost of risk	(193)	(193)	(59.0%)	(32.8%)	(1,032)	(1,032)	(4.7%)
Net income - Group share	216	349	x49.9	(2.8%)	1,136	1,742	x3.4

*社債発行とローン・ヘッジの再評価による修正が行われています

2009年、クレディ・アグリコルCIBは、2008年の秋に採用したリフォーカス及び開発プランを導入しました。非継続事業の損失は減少し、継続事業の純利益グループ帰属分は、10億ユーロを上回りました。

積極的にリスク軽減を推し進めたことで、エキゾチック株式デリバティブ及びコリレーション・クレジットの損失は抑えることが出来ました。同時に、2009年の米国の住宅ローン市場の指標の悪化により、2009年第4四半期も含めて、債務担保証券（CDO）、ローン担保証券（CLO）と資産担保証券（ABS）ポートフォリオの損失が更に増加しました。非継続事業の純利益グループ帰属分は、2008年の34億ユーロの損失に対して、第4四半期の3億3,300万ユーロを含む15億ユーロの損失となりました。

社債発行とローン・ヘッジの再評価及び発行体スプレッドの影響額を除いて、2009年の継続事業の銀行業務純利益は、32.8%増加しました。第4四半期に、市場は引き続き正常な水準に戻ってきました。こうした状況を背景に、資本市場部門の事業は若干減少しましたが、ファイナンス事業は高収益が確認されました。

営業費用(事業再編費用を除く)は、リフォーカス・プランの目標に沿って、1年間で8%減少しました。2009年の継続事業のリスク関連費用は、引き続き高い水準となりました。これには、ファイナンス事業の個別取引の減損費用と引当金の増加が含まれます。第4四半期は、特に著しいローンの破綻問題が発生しなかったため、リスク関連費用は減少しました。

継続事業の純利益グループ帰属分は、社債発行とローン・ヘッジの再評価による修正後で、2008年の5億400万ユーロに対し、17億4,200万ユーロに達しました。第4四半期は、継続事業の純利益グループ帰属分は、再評価による修正後、3億4,900万ユーロに達し、前年同期比では大幅な増加となり、第3四半期と比べても安定しました。

リスク関連費用の削減については、リフォーカス・プランに沿って引き続き努力が続けられました。リスク・ウェイト資産は、1年間で186億ユーロ減少し、2009年12月31日現在で1,325億ユーロとなりました。リスク・ウェイト資産の減少は、主に、市場リスクのエクスポージャーの減少によるものです。これは、規制によるVaR(最大損失予想額)におけるボラティリティの減少に反映されており、2009年12月31日現在で2,900万ユーロに留まりました。

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q4-09	Change Q4/Q4	Change Q4/Q3	2009	Change 2009/2008	Change 2009/2008 excluding discounts and loan hedges
Net banking income	580	(49.8%)	+15.8%	2,001	(25.4%)	+12.2%
Operating expenses	(202)	+0.6%	(3.2%)	(812)	(6.5%)	(6.5%)
Gross operating income	378	(60.4%)	+29.4%	1,189	(34.5%)	+24.8%
Cost of risk	(181)	(35.5%)	(30.0%)	(936)	+49.6%	
Operating income	197	(70.8%)	x5.8	253	(78.7%)	
Equity affiliates	14	(41.7%)	(57.6%)	117	(3.3%)	
Net income on other assets	1	nm	nm	5	nm	
Pre-tax income	212	(69.6%)	x3.1	375	(71.3%)	
Tax	(40)	(75.3%)	x2.7	(72)	(75.6%)	
Net income - Group share	169	(68.6%)	x3.7	285	(70.5%)	

2009年は、ファイナンス事業は優れた業績結果を出しました。2008年のローン・ヘッジとシンジケーション割引の影響を除いて、2009年のファイナンス事業の収益は12.2%の伸びを示しました。収益増加の殆どは、商業銀行部門によるものです。当部門は、主に国際部門の収益が20.6%増となり、クレディ・アグリコル・CIBは、欧州/中東/アフリカ地域のシンジケートローンで第3位にランクしました。経常ベースで収益を生んでいるストラクチャード・ファイナンス事業は、2009年に5.1%の増加となりました。2009年のプロジェクト・ファイナンス事業（期末時世界第3位）、輸出クレジット（期末時第1位）、航空機ファイナンス（期末時世界第2位）は、目ざましい結果を出しました。第4四半期の伸びも極めて力強く、銀行業務純利益は前年同期比15.8%増の5億8,000万ユーロに達しました。

部門別の業績結果は、ローン・ポートフォリオに対するヘッジ・デリバティブの評価の影響を反映しています。これらのリスク・ヘッジを積極的に管理することによって、2009年度の4億2000万ユーロのマイナス影響を、軽減することができました。この軽減により、含み益の大部分を確定することができ、今期末までにヘッジ費用を最低限まで下げることができました（第4四半期は-5,200万ユーロ）。

2009年の費用は、同一為替レート下で、7.9%減少しました。第4四半期は、第3四半期よりも3.2%減少しました。

2009年は、リスク関連費用は、湾岸地域のファイナンス事業による2億9,500万ユーロの損失を含む、数件の単発の取引の減損費用や引当金の増加を反映しています。2009年12月31日時点で、同引当金は16億ユーロに達しました。バーゼル1のリスク・ウェイト資産に対するリスク関連費用は、2008年の55ベース・ポイントに対し、2009年は76ベース・ポイントでした。第4四半期のリスク関連費用は、第3四半期比30%減の1億8,100万ユーロでした。

2009年の純利益グループ帰属分、第4四半期の1億6,900万ユーロを含む、2億8,500万ユーロとなりました。

資本市場部門及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q4-09	Change Q4/Q4	Change Q4/Q3	2009	Change 2009/2008
Net banking income	636	(9.9%)	(6.0%)	3,502	(4.6%)
Operating expenses	(583)	+5.4%	+4.8%	(2,245)	(6.9%)
Gross operating income	53	(65.4%)	(55.9%)	1,257	(0.2%)
Cost of risk	(12)	(93.7%)	(58.6%)	(96)	(79.0%)
Operating income	41	nm	(55.1%)	1,161	+44.6%
Equity affiliates	1	nm	nm	(2)	(75.0%)
Pre-tax income	42	nm	(56.8%)	1,166	+46.7%
Tax	9	(38.7%)	x6.1	(292)	+16.2%
Net income - Group share	47	nm	(50.7%)	851	+58.5%

資本市場及び投資銀行部門は、2008年に含み益6億8,800万ユーロ(第4四半期の9,800万ユーロを含む)を残したのに対し、2009年はクレディ・アグリコルCIBが発行したストラクチャード債券によって5億400万ユーロ(第4四半期の1億5,100万ユーロを含む)の含み損が生じたことから、業績に大幅な悪影響を受けました。これらの勘定科目の調整後、2009年の銀行業務純利益は34.2%増加しました。第4四半期では、前年同期比29.4%の増加となりました。

この部門の成長は、債券部門に支えられており、通常のクレジット・デリバティブ取引や年初の社債発行による素晴らしい実績によって、収益が46%押し上げられました。資金取引は2009年の上半期の市場の収益機会を享受し、年間を通しての当事業収益は2008年と同水準までになりました。コモディティー取引と為替取引部門が優れた業績を達成した2008年に続いて、2009年も同部門が好調な結果を残しました。株式部門の収益は、2009年は19%増加しました。株式デリバティブ部門は、2009年に再び利益に転じました。株式関連のブローカレッジ取引及び同関連の上場物取引の低迷に伴って、ブローカレッジ業務の収益は減少しました。それでもなお、欧州ではシュブルー(Cheuvreux)はマーケットリサーチにかけてはトップにランクしています。欧州の株式に対する推奨銘柄と収益予想に関しては、1位にランクしており(出典:Starmine 2009)、小型株、中型株のリサーチでも1位にランクしています(出典:Thomson Extel Surveys 2009)。2008年に堅調な業績を達成したニューエッジ(Newedge)は、本年も2007年と同水準の収益を出し、着実にマーケットシェアを維持しました。アジアにおいて、CLSAは年末にかけて業績を回復しております。投資銀行部門では、数多くの新株発行引受が相当な収益を生み出しました。

営業費用は、第4四半期に多少増加したものの、年間では7%減少し、厳しく抑えることができました。2009年の営業総利益は13億ユーロで、主に年初の収益増によって下支えされました。

第4四半期の営業総利益は、5,300万ユーロでした。

2009年のリスク関連費用は、リーマンブラザーズの破綻により深刻な打撃を受けた前年と比べて79%減の9,600万ユーロになりました(第4四半期は1,200万ユーロ)。継続事業のVaR(最大損失予想額)は減少し、限度額の3,500万ユーロを遙かに下回る水準を維持しています。

2009年の税引後の純利益グループ帰属分は、第4四半期の4,700万ユーロを含む8億5,100万ユーロとなりました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q4-09	Change Q4/Q4	Change Q4/Q3	2009	Change 2009/2008
Net banking income	(271)	(36.4%)	x2.4	(1,347)	(69.8%)
Operating expenses	(33)	(53.5%)	+6.5%	(124)	(58.7%)
Gross operating income	(304)	(38.8%)	x2.1	(1,471)	(69.1%)
Cost of risk	(222)	(2.2%)	+8.3%	(737)	x3.2
Pre-tax income	(526)	(27.3%)	+50.3%	(2,208)	(55.7%)
Tax	185	+8.2%	+79.6%	719	(53.9%)
Net income - Group share	(333)	(39.8%)	+38.2%	(1,456)	(57.5%)

第4四半期の非継続事業のマイナス影響額は、3億3,300万ユーロにとどまりました。

米国の住宅担保債券によるマイナス影響額は、前期までと同水準でした。第4四半期は、米国住宅担保市場の指標が引き続き悪化したことにより、銀行純利益に認識された保証付き及び無保証の残高に対して2億6,000万ユーロの減損費用が生じました。うち2億2,200万ユーロが主にCDOとABSに対するリスク関連費用として計上されました。CLOのリスク・ヘッジの評価法を、マクロ・ヘッジから時価評価に変更したことにより、同収益が1億3,500万ユーロ減少しました。しかし、ネット・ファイナンス・マクロ・ヘッジが導入されたことにより、2億4,100万ユーロの利益が生じました。更に、クレディ・アグリコル・CIBは、保有していた7億ユーロのCLOのエクスポージャーを売却しました。

当事業部門は、エキゾチック株式デリバティブのエクスポージャーも削減しましたが、エクスポージャー削減による銀行純利益への収益寄与はごく僅かでした。

CDOのクレジット・スプレッドの縮小によるプラス効果は、保証会社に対するエクスポージャーの削減にも繋がり、クレジット関連事業の銀行業務純利益はプラスとなりました。

第4四半期のリスク・ウェイト資産は、前期までのエクスポージャーの大幅な削減に続いて、125億ユーロで安定しました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2009年のクレディ・アグリコル・グループの銀行業務純利益は、スエズ株式売却益を含む2008年の銀行純利益に対し、10.1%増の313億ユーロに達しました。これは、従来の事業部門、特に地域銀行の事業推進力が堅調であったことと、非継続事業のマイナス影響額が縮小したことを反映しています。

営業費用は、厳格に管理され、2.7%減の197億ユーロに低下しました。コスト比率は62.8%で、地域銀行の好調な業績(費用対効果)と全ての事業部門での事業再編が成功したことを反映しています。グループの営業総利益は、41%増加しました。

リスク関連費用は、前年比40.9%増の65億ユーロとなり、主に、国際リテール・バンキング(特にギリシャ)、専門金融サービス、非継続事業を含む法人営業及び投資銀行部門に集中しています。

関連会社の利益は低水準で、これはインテサ・サンパオロ(Intesa SanPaolo: 2009年は-2億1,200万ユーロ)の連結会計による影響額を反映した数値です。2008年はバンキンター(Bankinter)の初めての連結会計分とBESの僅かな寄与分を含んでいます。2009年のその他の資産の純利益には、エンポリキ(Emporiki)の営業権の減損が含まれています(当グループで5億2,500万ユーロ)。

2009年の純利益グループ帰属分は、全体で、前年比12.1%増の27億4,700万ユーロとなりました。

2009年12月31日現在の自己資本グループ帰属分は、688億ユーロでした。ティア1比率は9.7%、CRD比率は10.9%でした。

€m	2009	2008	Δ 2009/2008
Net banking income	31,305	28,455	+10.1%
Operating expenses	(19,653)	(20,192)	(2.7%)
Gross operating income	11,652	8,263	+41.0%
Cost of risk	(6,482)	(4,600)	+40.9%
Operating income	5,170	3,663	+41.1%
Equity affiliates	(6)	66	nm
Net income on other assets	(480)	142	nm
Pre-tax income	4,684	3,871	+21.0%
Tax	(1,773)	(958)	+85.1%
Net income	3,069	2,941	+4.4%
Net income – Group share	2,747	2,451	+12.1%

クレディ・アグリコルS.A.の2009年第4四半期の財務情報は、当プレス・リリース及び添付の資料から構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、<http://finance.credit-agricole.com>の“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定めるL. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq.の規定に従って、クレディ・アグリコルS.A.により公開されています。

Investor relations + 33(0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber +33 (0) 1 43 23 26 78

Nathalie Auzenat +33 (0) 1.57.72.37.81

Colette Canciani+33 (0) 1 57 72 38 63

Sébastien Chavane +33 (0) 1.57.72.23.46

Fabienne Heureux +33 (0) 1.43.23.06.38

Marie-Agnès Huguenin +33 (0)1.43.23.15.99

Aurélie Marboeuf +33 (0) 1.57.72.38.05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts under the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset impairment.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union.